

平成26年度豊明市学力充実プラン推進事業概要

1 わらい

市内全小中学校が、これまでの児童生徒の学習状況を再点検し、その問題点や課題を克服するため、児童生徒の学力の定着と向上を図ることを目的として、全校体制でプランを練り、実践する。

2 活動内容

ア 本市の児童生徒の学力・学習状況に関する課題

本市における全国学力・学習状況調査の結果を分析したところ、「学年が上がるごとに学校生活に対する満足度や、授業に対する理解度が低下する」という傾向があることが明らかになった。また、「家庭学習の時間が少ない」という現状が浮き彫りになった。

まず、学校生活に対する満足度が低いと、「学級（あるいは学校）が楽しくない」「学級での居心地がよくない」となる。児童生徒が自分の所属する学級に対して適応感が低いと、疎外感を感じるようになる。また、満足感が十分味わうことができないと、学校生活に自分なりの意味を見出して生き生きと学校で一日を過ごすことは困難となる。

次に、授業に対する理解度が低下していくと、「授業や学習内容がわからない」という状況となり、「わからない」がさらなる「わからない」という悪循環を生み、「授業や学習がつまらない」とならざるを得ない。こうなると、児童生徒の「知りたい」「わかりたい」という知的好奇心や「できるようになりたい」という意欲を鈍化させ、学習に対して消極的にさせてしまう。

さらに、家庭での学習時間が少ないと、授業でこれから学ぶ内容について見通しをもてなかったり、既に学んだ内容を振り返らないために十分に定着できなかったりという状況になる。また、生徒が家庭で宿題のみを行うだけの場合、自分の学習状況（個々の強みと弱み）に即した積極的な取り組みが十分になされているとは言えない。学校で「集中して前向きに学習する」という取り組み方法や習慣は、児童生徒個々が家庭に戻った後も受け継がれる。そのため、「家庭学習に対する姿勢」と「学校での学習に対する取り組み姿勢」を切り離して考えることは難しい。

以上のような本市における問題や課題をまとめてみると、「授業がわからない、楽しくない」という授業内容に関わる点、「授業に前向きに取り組めない、集中できない」「家庭で学習をする時間が少ない」という学習姿勢に関わる点、「学級が楽しくない、居心地がよくない」という学級に対する所属意識に関わる点、という大きく3つの問題点として整理することができる。（図1）

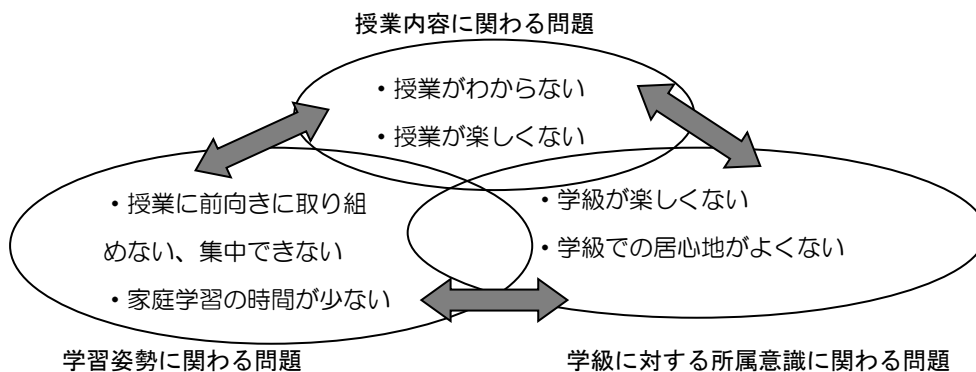


図1 本市における児童生徒の学力・学習状況に関する3つの問題点

この3つの問題点は、それぞれが別個に存在しているのではない。例えば、「学級が楽しくないから授業も楽しくない」「授業がわからないから集中できない」「授業に前向きに取り組めないからますます授業がわからず学校も楽しくない」というように、問題が複雑に絡み合いながら図1のように相関関係をもって存在している。つまり、この3つの問題点を改善していくことで、上記のような“負の連鎖”から、例えば、「学級が楽しいから授業が楽しい」「授業がわかるから集中できる」「仲間や教師と一緒に集中して学習する」というような“正の連鎖”へと変化するのではないかと考えた。この“正の連鎖”と児童生徒個々の「学ぶ意欲(=学ぼうとする力)」が直結することは、様々な研究(鹿毛2007)¹⁾、(真田2013)²⁾でも指摘されている。

イ 本市の「学力充実モデルプラン」構築に向けて

文科省が、我が国の児童生徒に育成すべき「学力」として、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」と説明しており、最終的な目標は「生きる力」の育成だと強調し、「確かな学力」の基礎基本を「思考力」「判断力」「表現力」「問題解決能力」「課題発見能力」「学び方」「知識・技能」、そして「学ぶ意欲」をあげている。つまり、「学ぶ意欲」は確かな学力の1つの要素であり、児童生徒の学力充実の重要な基盤であると捉えたい。

そこで、本研究では、先述した3つの問題点を改善するために、「授業研究(わかる・できる授業の設計)」「学習環境づくり(落ち着いて学習に取り組む力、学習に関する見通し力・振り返り力・集中力の育成)」「人的環境づくり(安心して学ぶことができる関係性の構築)」の3つの柱を設定した。そして、市内全小中学校で、各学校の課題を踏まえながら改善を図ることで、図2のように、本市における「学力充実プラン」を構築し、学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につける児童生徒を育成したいと考えた。

さらに、今回の研究をとおして、学校間で情報交換が行われ、各学校の成果や課題を共有しながら、学力充実のための取り組みが各学校で再検討されていくことを期待したい。

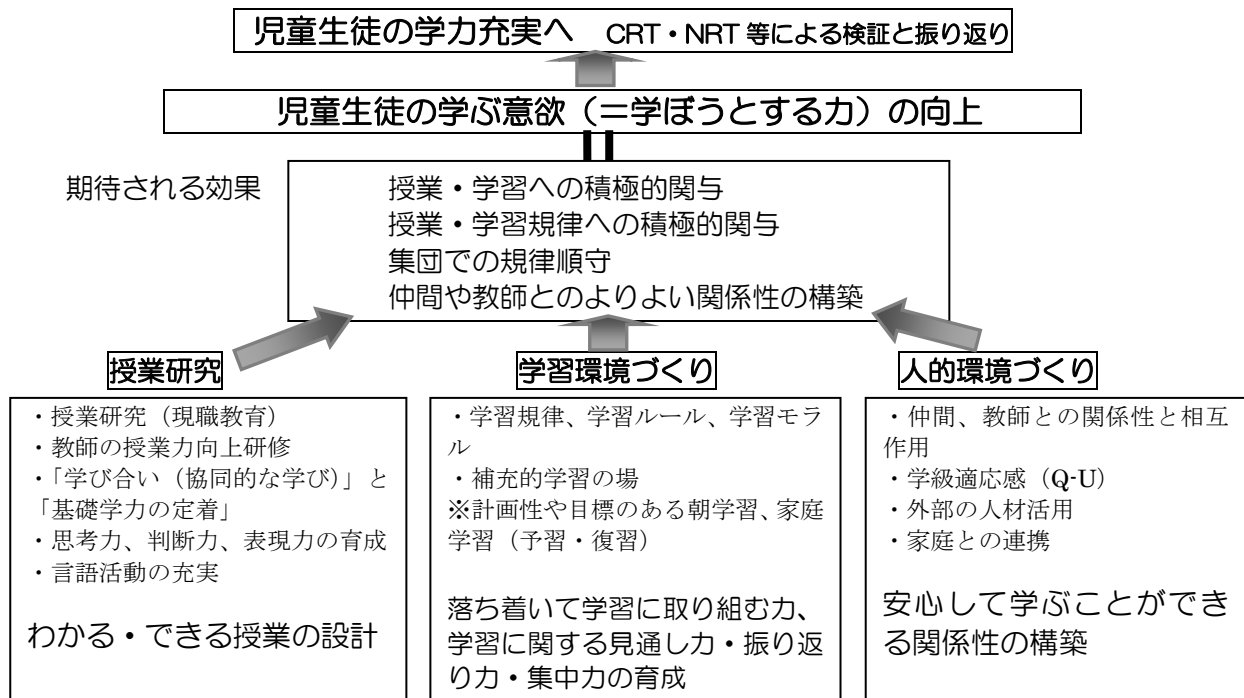


図2 研究構想図案(豊明市学力充実モデルプラン)

ウ 本市の学力充実プランに係る組織編成

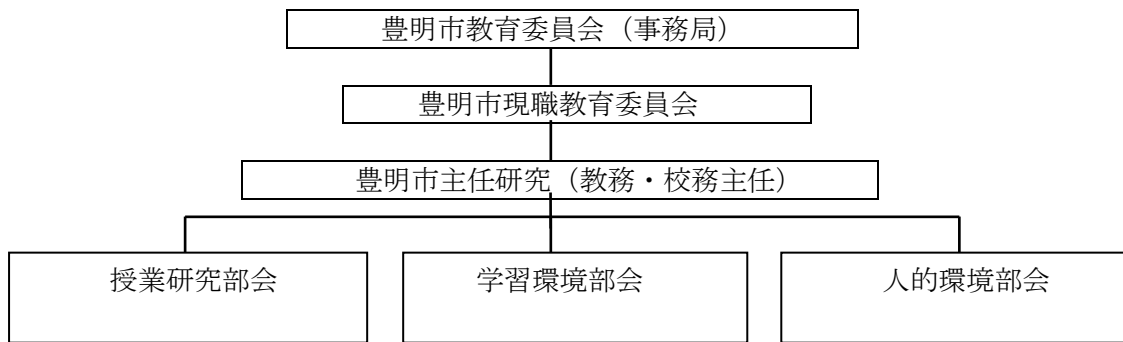


図3 豊明市学力充実モデルプラン推進事業(組織編成)

3 研究計画

- ア 第1回市現職教育委員会「事業内容の提案」(4月)
- イ 第1回合同主任会議「研究の組織編成案と研究構想」(4月)
- ウ 第1回教務主任会議「各学校の現職教育の取り組みと課題(アンケート集約)」(4月)
- エ 第2回教務主任会議「研究組織編成と研究の方向性」(6月)
 - ・各部会に分かれ、4校で話し合い、実践報告の分担を決定
 - ・6月30日までに1学期までの各学校の実践を各部会責任者へ提出
- オ 研究推進委員会
 - 第1回 6月26日(木) 17:00 館小学校 ・各校の取り組みの集約
 - 第2回 7月25日(金) 14:00 館小学校 ・「中間のまとめ」の原稿の検討
 - ・今後の研究について
- カ Q-Uの実施と結果の分析(小3～6年、中全学年対象、5～6月、11～12月の2回)
- キ 各学校での実践と各研究部会による検討(随時、5～12月)
- ク 第2回合同主任会議「中間のまとめ」(8月) ※市HP上に掲載
- ケ 秋田県の小学校を視察(教務主任2名程度)
- コ 実践の集約と報告書の作成開始(12月) ※随時、教務・校務主任会議、研究部会等で実施
- サ 第2回市現職教育委員会「学力充実モデルプランの検証と次年度へ向けての課題設定」(1月)
- シ 実践報告書完成(2月)
- ス CRT・NRTの実施と結果の集約(2月)
- セ 県への実践報告(2月)

注記

- 1) 鹿毛雅治『子どもの姿に学ぶ教師 「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」』、教育出版、2007
- 2) 真田穰人、浅川潔司、佐々木聡、貴村亮太「児童の学習意欲の形成に関する学校心理学的研究—学習規律と学級適応感との関連について—」『兵庫教育大学教育実践学論集』第15号,pp.27-38、2014